からむし

59
麻生区文化協会会報

今も残る自然と人間の営み
～古沢の風景～

新百合ヶ丘駅前の喧噪から離れ、歩くこと約十分で緑豊かな古沢地区に入ります。この地区は、地図に灰色で示すように、稲城市平尾地区に隣接する広大な丘陵地域で、市街化調整区域に指定され、近郊農業が行われています。

麻生区文化協会では、毎年一月七日に区役所前広場であさお古風七草粥の会を開催していますが、一月五日に、古沢地区の農家のご厚意で、畑の隅のハコベラ、ナズナ、ホトケノザや、水路に生えるセリを採集させていただいています。

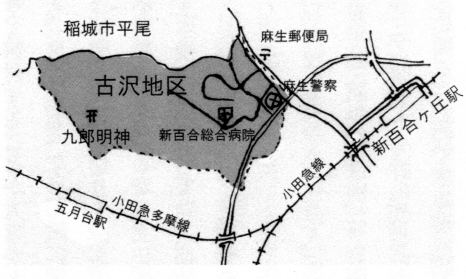
二〇一二年八月に古沢地区の丘陵地に開設された新百合ヶ丘総合病院を通り抜けて山道を進むと、さし絵のような農業地区が広がります。古沢では、いくつかの農家が、自ら農業にたずさわる傍ら、農地の一部を市民農園として一般市民に貸し出すとともに、栽培のアドバイス指導にあたっています。

農地を抜けると森林に入ります。あちこちでさえずる小鳥の声に深山幽谷に入ったような気分になり、大いに癒やされます。

五月台駅の方向に向かって山道を下っていくと、麻生区に伝わる義経伝説の一つである九郎明神社にたどり着きます。鎌倉に馳せ参じる義経が古沢村に一泊し、礼として村人に与えた刀一振りを祀ったと伝えられています。

麻生区の中心に近く、交通の便がよいこの地、遠くない将来、大規模な市街地開発が行われるものと予想されますが、できる限り自然の豊かさを残していただきたいものです。

（絵と文　佐藤勝昭）



九郎明神社の祠

リニューアルしたからむし五十九号の各ページを紹介します

P1　麻生区のさまざまな風物を、美術工芸部メンバーの絵と文で紹介します。
P2　三十周年記念のキャッチコピー「あたらしい風と創造」に込められた思いを菅原敬子会長が熱く語ります。
P3　（1）本会の活動を支える方々に書いていただきます。今号は麻生市民館の別所毅新館長による「麻生再発見」です。
（2）麻生の歴史を語るシリーズ「麻生アーカイブス」が始まります。
第一回は「華沙里通信」です。
P4　麻生区の文化活動に貢献された個人・団体を紹介します。今号では、麻生区文化協会に長年貢献され、一月に逝去された杉本長治元会長の足跡を、専門委員の千坂隆男さんが振り返ります。
P6　（1）夏休み親子教室、今年開講された十七講座すべてについてのレポートです。
（2）市民交流センターやまゆりの活動を支えるNPO法人の理事長である植木昌昭さんにインタビュー。
P8　会員の活躍のページです。
東日本伝統工芸展　深野怜さん、
胡桃バレエスタジオ
雑草と呼ばないで　佐藤勝昭さん